

解答例

問 1

1979年から2013年までの間に、米国世帯の上位5分の1の課税前所得は4兆ドル増加しました。一方、下位80%の合計増加額は3兆ドルを少し上回る程度でした。下位5分の1と中間5分の1の間の格差は全く拡大していません。実際、80%未満の所得格差は増加していません。すべての格差の拡大は、その線の上で起こっています。

当然ながら、上位5分の1の所得増加は均一ではありません:所得増加の3分の1は上位1%に集中しました。しかし、その下にある19%には2.7兆ドルが残されました。大金持ちの仲間入りを逃したからといって、貧民としての生活を送るわけではありません。繁栄しているのは「上流階級」だけではありません。アメリカ社会のはるかに広い層が繁栄し、他から離れていっています。

これらの事実は一部の人々に不快感を抱かせます。私たちの中ですぐに超富裕層と結びつけられた人はほとんどいません。分布の頂点に近い人々が、最も頂点にいる人々に対して最も怒りを抱いているように見えます。2011年のメーデーの「オキュパイ」行進に参加したデモ参加者のうち、3分の1以上が年間所得10万ドルを超える人々でした。しかし、羨望や不満で上を見上げるのではなく、上流中流階級は、ますます後れを取る人々との比較で自身の立場を見直すべきです。

上流中流階級の子供たちは、普通の子供たちとはまったく異なる教育を受けています。特に、彼らは労働市場で評価されるスキル、資質、資格を身につけています。アメリカ人は、飲酒できる年齢になる頃には、階級制度における自分の立場が明確になっています。

上流中流階級の親たちは、子供たちに費やすお金も、その使い道も明らかに豊富です。しかし、これは社会的な断絶でもあります。階級は、お金だけでなく、教育、態度、郵便番号、経済的な生活水準だけでなく、その生活様式によっても定義されます。ロバート・パットナムは『Our Kids』の中で、アメリカは「初期段階の階級アパルトヘイト」に直面していると警告しています。

アメリカの上流中流階級で生まれ育った典型的な子供は、教育水準の高い、結婚した両親によって安定した家庭で育てられ、素晴らしい地域に住み、その地域で最高の学校に通っています。上流中流階級の子供たちは、幅広いスキルを身につけ、素晴らしい資格を取得します。彼らは最初から幸運に恵まれているのです。

問 2

筆者は教育とスキルを獲得する機会を平等化し、機会独占を抑制するための措置として、7つのステップを提言している。最初の4つは、人的資本の開発を平等化し、「市場における能力」の配分をより均等にするを目的に、①より良い避妊手段へのアクセスを拡大することで意図しない妊娠率を削減すること、②家庭訪問への投資を通じて子育ての格差を縮小すること、③貧困校で働く優秀な教師に報酬を支払うこと、④そして大学資金の配分を平等化すること(529プランを含む)です。機会独占を抑制することを目的とする残り3つの提案は、⑤公正な土地利用規制を通じて排他的な区域指定を抑制すること、⑥高等教育への門戸を拡大すること(伝統的な入学制度の廃止を含む)、⑦インターンシップの機会を拡大することです。

私はこの考えに賛同します。なぜなら日本においても教育格差という問題が指摘され、高所得世帯の子どもは教育に多くの経済的支援が受けられ偏差値の高い大学に進学することができる一方で、低所得世帯はそうした機会が奪われていることが研究で明らかになっているからです。近年は私立の高校を無償化することで低所得世帯にも選択肢を拡充するということが議論されていますが、その反面、高所得者も無償化の恩恵を享受し、その差が縮まることがないと思われます。市場における独占禁止法があるように、実質的な格差を縮める、もしくは高所得世帯の独占を禁止する政策がなければ、公正な競争が行われないからです。